

小学生を対象としたコンテナ船およびコンテナターミナル見学会を神戸港で開催

当協会では、海運の重要性を広く一般の方々に認識いただくべく、様々な広報活動を展開しており、特に青少年を対象に海運や船員の仕事への理解増進に取り組んでおります。

今年度も昨年度に引き続き、政府と日本財団が中心となり、7月中旬から8月下旬にかけて『海と日本プロジェクト』として多様な広報行事が予定されており、当協会も「船ってサイコ〜2016 せんきょう夏休みキャンペーン」と題して、船内見学会をはじめ、様々なイベントを開催中です。

7月22日（金）、上記キャンペーンの一環として、当協会は会員会社である川崎汽船および春山海運と共催で、小学校児童を対象としたコンテナ船およびコンテナターミナルの見学会を神戸港において開催いたしました。



参加児童と GUANG DONG BRIDGE



ブリッジ（船橋）で船長の説明を受ける子供たち

船内では、現役の船長が子供たちをブリッジ（船橋）や厨房、食堂等に案内、子供達は初めて見る航海機器や船内設備をとっても興味深い眼差しで見つめていました。子供達からは案内役の船長に対し、「大きな鉄の船がなぜ浮かぶの？」、「船員さんの食べものはどうしているの？」、「船が迷わないで航海できるのは何故？」等の質問がありました。

船内見学の後、コンパスデッキに案内された子どもたちは、ガントリークレーンによる荷役を間近で見学、その迫力に歓声を上げていました。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施して参ります。



ガントリークレーンによる荷役の迫力にびっくり

※本レポート掲載写真は川崎汽船提供。